

株式会社池田看板 代表取締役会長 ^{いけだ ようこ} 池田 洋子 氏

お客様の要望を形に。看板で街を 楽しくするお手伝いをしたい



代表取締役会長
池田洋子 氏

代表取締役社長
池田佳弘 氏

PROFILE

1949年生まれ、新潟市出身。高校を卒業後、銀行に9年間勤務し、池田看板の2代目となる池田良作氏と結婚。1989年、良作氏の死去にともない社長に就任する。2016年、長男の池田佳弘氏が代表取締役社長となり、代表取締役会長に就任。新潟商工会議所では常議員を務める。前パワーアップ5000推進委員長。

看板に関する業務をはじめ、イベント事業などを手掛ける池田看板は、今年で創業90年目を迎える老舗企業。初代である義父、2代目である夫の思いを受け継ぎながら会社の発展に尽力するとともに、新潟商工会議所の活動にも長年携わる池田会長に、お話を伺いました。



株式会社池田看板

〒950-3102

新潟市北区島見町字芝田243番36

TEL : 025-257-4088

<http://www.ikeda-kanban.com>



困難に出合う時、義父が残した広告書道の本を読むと落ち着きます。長年続けてこられたのは、こうした心の拠り所があるからだと思います

看板・イベントの企画から 施工、運営までトータルで提案

池田看板は、筆で文字を書く看板店として昭和10年に創業。時代の変遷とともに多様なニーズに対応するようになり、現在は屋外や商業施設の看板、ディスプレイの企画・デザイン・製作・施工、アルビレックス新潟などのスポーツイベントのほか、各種イベントの企画・施工・運営、販促物の制作などを手掛けている。「社員一人一人が自分の受け持つ仕事に強い姿勢で立ち向かってくれるので、未経験の仕事でもやり抜くことができる。それが当社が一番の強みかもしれません」と池田会長は話す。

顧客や同業者、地域との繋がりが 会社を続けていく支えに

池田会長は平成元年に死去した夫・良作氏の後を引き継ぎ社長に就任。「当時は高齢の職人たちもいたので、何とか会社を続けなければという思いでした」と話すが、平成9年に東港工業団地に移転し、事業の幅を拡大する。未経験の世界で苦労も多かったが、これまで続けてこられたのは顧客や周囲の支えがあったからだという。「同業者もライバルではなく同士。大きな仕事のときは同業者に協力していただき、助かっています」。

また、イベントによってはシルバー人材センターを通して地域の高齢者に仕事を依頼したり、児童や高齢者が集まる場所で仕事を教えるなど、地域との繋がりも大切にしている。その一つが令和4年に行った南中野山小学校とのプロジェクトだ。「喜ばしいことに、5年生の総合学習の一環として、



スポーツイベントや式典、講演会、選挙用など多種多様な看板を手掛ける。デザインから製作、施工まで社内一貫で行うことができるのも強みだ。

越後石山駅の地下道に壁画を描きたいということで、その指導をしてほしいという依頼があったのです」と話すように、子どもたちや地域住民と一体となって取り組めたことが嬉しかったという。

時代の変化に合わせてながら 自社にしかないカラーを大事に

新潟商工会議所で常議員を務める池田会長は「今の経営者はいろいろな会に入っていると思います。商工会議所は地域経済を考える唯一の団体なので、入会する意味はあると思います。また、最初から事業経営を身に付けていなくても、その時々の問題について相談できます。そして支援メニューも揃っているので小規模事業者の強い味方ですね」と話す。

今後の展望については、「時代の変化に合わせていく必要もありますが、初代から培ってきた自社にしかないカラーも大事にしていきたいです。そして街を歩く人たちが看板を見て、“楽しい”とか“元気になる”と思ってもらえるように、本業の意義をしっかりと踏まえて進んでいきたいと思っています」。これからも看板やイベントを通して街中や生活を彩り、地域に貢献していこうと思っている。



「越後石山駅の周辺を明るくしたい」と、南中野山小学校の5年生が地下道に壁画を製作。同社の社員が絵の塗り方を指導した。万代橋や桜、未来号と名づけた列車などが描かれている。